

さあ、今年も縦走のシーズンがやって参りました。暑からず、寒からず、水場も枯れない、ということで昨年に引き続きロングトレイルを狙います。世間では年号が変わる節目としてGW10連休とかなっていましたが、ぼくも相棒も（ハイキングセミナー同期で共に高島トレイルも歩いた、以下0さん）ほぼ暦通りの休みだったので5月3.4.5.6の3泊4日で計画を立てます。コースタイムの0.7で歩けたら歩ききれの計算です。1.0では時間が足りません。どうかな？昨年の高島トレイルも2泊で行けたしいけるやろ、あかんかったら下りたらええか、でもどうせなら行ききりたいな、とか思いを巡らせながら行く事決めました。しかしながら、どうせ歩くなら行ききりたい、という気持ちが強くて保険をかけました。0さんの提案で出発前日の仕事を半日であがらせてもらう交渉をして半日早く乗り込む事にしました。

5月2日お昼過ぎに近鉄吉野駅に到着。トイレやその日の晩飯、明朝飯の買い込みをしていると、0さんがバスがある事に気付く。売店のおばちゃんに詳しく聞くと、奥千本まで臨時バスがあるとのこと。スタートダッシュはこれで決まりや！先の100kmの事を思えば迷いはありませんでした。バスに揺られて奥千本よりいざ縦走スタート。本日の目標は出来るだけ距離を稼ぐ、途中水場で補給して最終テン場確保。まずは最初のピーク四寸岩山を目指す。いきなりの激登り。先が思いやられるがどんどん行きます。そしてまさかの0さんからの靴擦れ告白。この靴久しぶりに履いたけど、そういえばそうだった。忘れてたあはは。…絶句です。なぜにこの本番にそのチョイス！テーピングを貼って応急処置。「何事も火種の小さい内に処置すれば大事にはならない。」道中何度も唱える事に。

途中、予めインターネットで入手していた水場情報を元に大天井ヶ岳を迂回して水を補給し、日が暮れたがヘッドライトをして五番関までたどり着く。テント張れそうやね、ここにしようか。既に3張りほどあったが、そそくさとテントを張った。すると0さんがおもむろにブルーシートを出した。???…なにこれ？いや、テントの下に敷くやつ。…はあ？終止軽量化を説く者がまあまあ重量ある余計な物を持って来ている。買ったばかりのええテントを汚したくない。まあ気持ちはわからんでもないので、ぐっとこらえてテントに入る。するとすかさず、ちょっとテントに土入れないで！0さんが言う。ちょっと待て、ここは山やぞ？いきなり潔癖を炸裂さす0さん。知ってはいたが、そんなん気にしてたらきりないで？ぼくは言った。わかったわかった、と0さん引くが、テントシェアめんどくせーと思った。そう、今回は軽量化の為にワンテントで乗り込んだのだ。

5月3日5時起床。他のテントはまだ寝ていたので静かに撤収し、出発した。ここからは女人禁制ルートだ。今日の目標は計画書では行者還小屋にしているが、初日に半日稼いだ分があるので、行けるとこまで行く、である。しかし朝からやたらと人とすれ違う。「ようおまいり〜」とみんな言うていく。修行僧みたいな格好をした人がほとんどだ。ほどなくして洞辻茶屋に着く。おお、ここがあの写真で見たあれか。ちょっと感動した。そこでも修行僧みたいな人達がたむろしていた。聞けば、今日は大峰山（山上ヶ岳）開山の日で、みなさんお参りに来ているらしく、茶屋では色々売られていた。ぼくらはゆで卵を買って食べて先を急いだ。山上ヶ岳を目指して行くがここもまあまあハードな登り。最後の方は長い階段みたいになっていて、きつかった。左のふくらはぎがピクピクしてきた。やばいな、もうきたか。すかさずコムレケアを飲んで、なんとか山上ヶ岳に着いた。足がつりそうになってた事は0さんには秘密である、いらんもん持ってくるからやと怒られるので。

噂に聞いた西ノ視岩を覗かせてもらい、宿坊らを通る。しかしすごい規模の建物たちだ。よくもこんなにも材料たちをこんなとこまで運んだものだな、と職業柄感心してしまった。一応お参りして先に進んだ。避難小屋を通過し、阿弥陀ヶ森にある女人結界門をくぐり、大普賢岳に近づく。大普賢岳は2月にシェイクスピア氷柱群を見に山頂崖下まで詰めていたので、そこに横からやってくるという状況に変に興奮した。山頂付近は見晴らしもよく、あの辺がそうかなとか0さんに話を聞いてもらった。続く七曜岳周辺は鎖場の連続。まあでもたいしたことはなかった。仮に落ちてでも死にはせんだろう、という印象。そして本日の目標である行者還小屋に到着。無人なもの、めっちゃ立派なログハウス。すげー、ここに泊まりたい！思ったがまだ13:30。先に進む。弥山が、おそらく弥山らしきが見えている。ここいらでは八経ヶ岳とならび一番高いので目立つ。弥山が近付くにつれ、すごい威圧感を放っている。まるで壁である。昨年11月に行った鉄山～弥山～タチクラ尾周回の際はこの壁を下りてきたのでわからなかったが、登るとなると嫌気が半端なかった。タチクラ尾への分岐の弁天の森を通過し、いざ勝負！空もピシャゴロゴロとかいって盛り上げる。おいおいちょっと雨はやめてくれ、言いながらももう疲れてフラフラな中なんとか弥山小屋に辿り着く。日没までまだ少し余裕があったが僕がもう疲れてロボットみたいな動きになっていたのでギブアップした。0さんはまだ余裕があるようだった。弥山小屋のカップラーメンの為にスパートかけれる程に。毎度思うが、この男はほんとにすごい体力である。実は歩いている途中でしばしば考えていた。一度弥山小屋で寝てみたい、と。しかもただ今疲労困憊、明日の為に小屋で快適に寝たい！0さんに申し出てOKをもらい、初弥山小屋泊をした。弥山小屋は二段式大部屋だったが布団もあり、それはもう快適過ぎて熟睡出来た。なんか嬉しくて、持っているのにお菓子なども買って、おにぎりも握ってもらった。しかしスピードが出ない。ここまで0.7どころかほぼ1.0かかっている。なんやいうて17、8キロになっているだろうザックのせいなのか、年のせいなのか、0さんも昨年よりペースが遅くなってる気がすると言っている。野生を取り戻せ！と何度も言うていた。でもどうしようもないので早起きして時間にものをいわせる事にした。

5月4日、4時起床。僕の前日の終わりの状態がひどかったので、朝の状態次第で下山も視野に入れていたが、布団のお陰で歩けそうだ。0さんに行けそうだと告げ、いざスタート。関西最高峰の八経ヶ岳を通過し釈迦ヶ岳を目指す。ここからは標高が下がっていく事になる。気持ちのいい稜線歩きだった。天気も景色もよくて、道端に湧いてる『鳥の水』なる水場で喉を潤し、弥山から6時間ほどで釈迦ヶ岳に取り付きます。この奥駆道は割りとそれぞれのピークを巻くように道がつけられているが、ここはまあまあ急登をピークまで登らされます。石ころがたくさんあって簡単に落石します、前後にもし人が続いたら普通に危ない感じです。なんとかピークに着くと、人がたくさん休んでいた。ぼくらが歩いてきたルート以外にもルートがあるようだ。そしてお釈迦様ドーン。むう、これがあの写真で見たあれか。遠目でもチラチラ視界に入っていたが、ちょっと感動した。しかしよくもまあこんな物をここまで持ってきたものだ。0さんがお釈迦様のお膝元で靴擦れのテーピングの補強をしている、少し休憩することにした。ここからまた標高がぐんと下がっていくので、先の縦走路がよく見えた。いい眺めだった。少し進むと、太古の辻、ここより南奥駆。の看板が出た。全行程の約半分の地点で前鬼口にも下りていける分岐でもある。あー、もう下りて帰ってスロット打ちたい。思いが溢れるが、まだ歩けそうなので先に進んだ。このあたりは水場がないので、次の水場がある持経の宿まではこの日は必達だった。縦走3日目ともなると、1日でどんだけ水が必要かもわかっているから、ほぼ最低限で歩いていたからだ。黙々と歩き、へろへろになりながら、なんとか持経の宿まで

とどいた。計画書上ではとうとう初日の半日分の貯金がなくなってしまったが、疲れたのでまたぼくがギブアップした。味をしめているぼくは目の前の小屋をスルーできなかった。0さんからOKをもらい、小屋で寝る事にした。そして0さんに散々責められた生卵を取り出し、卵ダブル in サッポロ一番みそラーメンダブルをかまして、弥山小屋とは雲泥の差の寝心地の床について。

5月5日、3時起床。貯金が尽きたので、時間にもいわせるか、スピードアップしかなかったのととりあえず前者を選択。ヘッドライトをして歩き始め、小屋を1つ越え、山を1つ越え、行仙岳に登り始める。すごい急登だ。吹き出す汗と共にもよおしてきた。まずいな、ぼくは痔持ちなので、ウォシュレットなしではちょっとつらいのだ。昨晚のサッポロ一番卵ダブルが効いているようだ。せめて、せめて小屋でさせてくれ。この急登の行仙岳を越え、下りた所に行仙小屋があるはずだ。吹き出す汗も変な汗に変わり、我慢との戦いになっていたが、山頂手前で爆発した。自身初体験を経た。行仙小屋に着くと、新宮山彦グループを名乗るおっさん達がいた。出発前の下調べで、この行仙小屋に泊まり、山菜の天ぷらを振る舞ってもらったという人のブログを見ていたので聞いてみると、要予約だそうだ。他には南は北と違い、いちいちピークを踏まされるという事も教えてもらった。この日の目標は玉置神社だったので、行けるかな？と尋ねると、「ちょっとこの時間からじゃきついな」まじか、この日も玉置神社の水場に必達だったので困ったが、もうここまできると進む以外の選択肢はなかったので先を急いだ。新宮山彦グループのおっさんが言うていた、大変なポイントその1『笠捨山の登り』にさしかかる。笠捨の急登にとりつくまでに何度も小ピークを越えさせられる。何度も騙されて最後にドーンという感じだった。この笠捨山は自会の大先輩が先日登りに来ていた山で、気になっていたのだが、山頂に立ち、来る意味が分かった。景色が素晴らしい。今まで歩いてきた縦走路が釈迦ヶ岳、八経、弥山まできれいに見える。この縦走で一番感動した。笠捨の名前は、なんとかいう偉いお坊さんがこの景色を見て、被っていた笠を取った事から名付けられた、と看板に書いてあった。大変なポイントその2『地蔵岳の鎖場』にとりつく。ここは間違いなくこの縦走路の中で一番の危険カ所だった。落ちたら無理やな、という所がいくつもあった。道もわかりにくく、慰霊碑もあった。「この鎖に体重をかけないでください」というナンセンスな注意書きもあったが、順峰を歩く人はこの注意書きを見れずに鎖を頼って登ってくる事になる。とんでもない話である。ともあれ無事に地蔵岳も通過してどんどん標高が下がっていく。途中下界がチラッと見えた。大きな駐車場だ。ああ俗世はもう近いな、と感じた。正直、少し嬉しかった。その少し上がったテンションのお陰かは不明だが、玉置神社に辿り着く事ができた。しかも売店が営業時間である内に。0さんは普段は欲を露にしない印象だが、珍しく『うどん』を、連呼している。食べたい、と言い切った。選択肢は2つ、進むのをやめてうどんを食べちゃう or 明日目標時間にゴールする為に少しでも距離を稼ぐ。うーん、早起きしたらええか、と食欲に負けて進むのを止め、御神木群に挨拶し、水を補給し、境内でお参りしてから売店のある駐車場に向かった。さあ、売り切れ御免のうどんにありつけるのか?!とても個性的なおやじに迎えられ店内へ。そしてうどんとめはり寿司にありつけた。ぼくは持参の卵を落として月見に、0さんは常温で4日間も持って歩いてるのでいらん、とのこと。正直、うどんよりも椅子の座布団の方がポイントが高かった。「どこからきたの〜?」おやじが尋ねてきた。「今日は持経からです。」「は〜い持経ね〜おじさんはね〜山の事はなんでも知ってるんだよ〜」「この道はね〜歩くと生まれ変わるんだよ〜だからみんな歩くんだよ〜」まじか、とりあえずうどんご馳走さまでした。おやじにテン場も教えてもらい、テント張って日が暮れるまでゆっくりした。晩飯を済ませてし

まったので、いらなくなった残る卵3個を0さん案でゆで卵にした。ナッツの塩で食べたが、すごいうまかった。ラストテント泊ということで、ええかげん着替えろ、の命令が下されて着替えたが、言うてる0さんの足がとんでもなく臭かった。ストレスだった。

5月6日、1時起床。ゴールの熊野本宮に着いてから帰阪する為にバスに乗らなければならない。御所行きか、紀伊田辺行きかになる。当然御所に北上する方が早い。しかしバスの時間は11時20分。それに乗りたいが為に1時に起きて歩き始めた。もう標高は1000mを切っているのだから、初めて歩くが見慣れた景色の様に感じた。激下りポイントもいくつかあったが、落ち葉が積り柔らかく歩きやすかった。まるで金剛山を歩いている様だった。途中まさかの雲海に遭遇して感動した。もはやお約束のしつこい登り下りも黙々と通過し、下界の町が見えてきた。あーもう縦走が終わってしまう。嬉しいけど寂しさもある感じ。そしてとうとう最後の登りを越えて熊野川の河原に下り立った！抱き合う事はしなかったが、労いの言葉を掛け合い、さあ熊野本宮は目前だ。ぼくのおねだりで渡渉をすることにした。水が氷水のように冷たくてびっくりしたが、気持ちよかった、笑いが止まらなかった。渡渉で一緒になった、前鬼からスタートした大阪の方も共に熊野本宮でお参りゴールして、無事に御所行きのバスに乗り込んだ。